Jumonji Press

十文字学園女子大学と
みなさまを結ぶ情報誌

No.48
2019.3

CONTENTS

●特集1……2
●特集2……4
わたしたちのクラブ活動紹介します!!……6
教職員紹介／留学生の今……8
ゼミに直撃!……9
大学にプラス!……10
地域にプラス!……12
就職活動最前線……13
若桐会Letter……14
お知らせ……15
学園100周年プロジェクト……16



特集1

公開講座　土井善晴氏

「料理の美学～おいしいものは美しい」

特集2

公開講座　三浦しをん氏

「先生!、、、私を伝統芸能好きにしてください」

学園100周年プロジェクト

十文字学園は2022年に創立100周年を迎えます

十文字学園創立100周年記念ロゴマークが決定しました

100周年プロジェクト準備委員会において厳正に審査･選考した結果、小峯亘さんの作品が十文字学園創立100周年記念ロゴマークに決定いたしました。
今後、さまざまなシーンにおいて、このロゴマークを活用してまいります。

100周年サイトがオープンしました

2019年2月15日（学園創立記念日）に、100周年サイトを開設しました。
今後、記念事業やイベント情報等を掲載していきます。
ぜひ、ご覧ください。



100周年記念募金について

「十文字学園創立100周年記念募金」を始めます。
100周年サイトよりお申し込みいただけます。
皆さまのご支援をいただきたくお願いいたします。

下記のアドレス、
もしくは右記QRコードよりホームページを閲覧できます。
https://gakuen.jumonji-u.ac.jp/100th/

資料ご提供のお願い

ただいま「十文字学園百年史」編纂の準備を進めています。
皆さまがお持ちの関連資料の提供にご協力いただける方は、事務局までご連絡ください。

例）短期大学・大学・学科・専攻などで配布された刊行物や印刷物、クラブ・サークルのパンフレット・ポスター、イベントやキャンパス内外のスナップ写真など、学生の様子が伝わるもの。
※1971年、1973年の卒業アルバムをご提供いただける方はご連絡ください。

十文字学園100周年プロジェクト事務局
〒352-8510 埼玉県新座市菅沢2-1-28
TEL　048-423-3749（直通）
TEL　048-477-0555（大学代表）
E-Mail　100th@jumonji-u.ac.jp

〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-10-33
TEL　03-3916-2030（直通）
E-Mail　100th@jumonji-u.ac.jp



～1984（昭和59）年3月20日～
雪が残る卒業式の1コマ

Jumonji Press　No.48
2019年3月19日発行

発　行：十文字学園女子大学
〒352-8510　埼玉県新座市菅沢2-1-28
TEL　048-477-0555（代表）
編　集：十文字学園女子大学　広報部
編集指導：石野 榮一（メディアコミュニケーション学科教授）
取材協力：ライターデザイン部　青井 沙蘭、天羽 菜月、金子 葵、川上 奈恵、田中 菜穂、三輪 奈央、大山 彩花、竹山 智美、唐津 奈々子、蛭川 美佳子
制作協力：ケイ・アイ・エス　有限会社

表紙の写真

第52回桐華祭の桐華賞・文化展部門第1位受賞の「みんなおいでよ!ダンボールの林」。幼児教育学科と児童教育学科の1年生を主に、授業の中で取り組む桐華祭の名物企画です。ダンボールの性質を活かしてつくった遊具はとても丈夫で、今年も大勢の子どもたちに大人気でした。桐華祭後は、ご希望のあった幼稚園や保育園、個人の皆様へ寄贈し、大切に使っていただいています。表紙は中心となって奮闘した幼児教育学科1年生代表委員のメンバーです。

編集後記

第48号のJumonji Pressは、昨年秋に開催した公開講座を特集しました。土井善晴先生、三浦しをんさんの話を間近に聞ける機会とあって、在学生や卒業生、一般の方たちが開始前から長い列をつくりました。人生の先輩によるエピソードが学生たちの柔らかな心を刺激し、さらに一歩踏み出していけるよう願っています。
ご多忙の中、取材等にご協力くださった方々に心からお礼申し上げます。

ライターデザイン部 部長　三輪 奈央

今号では、就職活動を終えた先輩にお話を伺いました。先輩方のお話は、これから始まる就活に向けて参考になり、緊張感が高まるものでした。部員も取材を通して多くのことを学ぶことができました。

「Jumonji Press」へのご意見・ご要望は、kohoka@jumonji-u.ac.jpまで。

公開講座

土井善晴氏講演会「料理の美学～おいしいものは美しい」

昨年10月13日、本学特別招聘教授で料理研究家の土井善晴氏による公開講座が開催されました。ここでは、和食文化と家庭料理にさまざまな切り口から迫った同氏の講演の一部をピックアップしてお送りします。



土井 善晴 氏
本学特別招聘教授

1957年大阪生まれ。故・土井勝氏の次男。大学卒業後、スイス、フランス、大阪にて料理修業。土井勝料理学校勤務の後、1992年に独立。

おいしいもの研究所代表、料理研究家。和食文化を未来につなぐために「和食の初期化」、持続可能な家庭料理のスタイルを提案。

メディア：NHK「視点・論点」「ラジオ深夜便」「きょうの料理」、テレビ朝日「おかずのクッキング」(1988～)、MBS「プレバト／盛付け審査」、BS朝日「土井善晴の美食探訪！」。近著：『おいしいもののまわり』『一汁一菜でよいという提案』『土井善晴の素材のレシピ』など。

家庭料理は民芸と同じ作為がないのが美しい

料理屋の料理、懐石料理は、味よりも美しさが大事。私も吉兆で修業していたころは、とにかく美を追い求めて仕事をしていました。でも、同じことを家庭料理でやったらダメ。まあ言うたら場違いなんです。家庭料理は民芸*と同じで、一所懸命無心に手を動かして作ることで、結果的に美しいもの、おいしく見えるものになる。私はよくテレビの料理番組で「地球の引力で盛り付けるんです」なんて冗談めかして言いますが、これ、実は結構本気なんですよ。引力という自然の秩序を利用する。作為的にきれいに見せようとしても家庭料理は美しくならないんです。

素朴な煮っころがしか洗練の含ませ煮か

里芋の煮方には二つあります。一つは、おばあちゃんの作る煮っころがし。皮をこそげて鍋で茹で、砂糖入れて、醤油入れて、煮詰まったらもう出来上がり。私なんか塩もみもせず茹でますから、お芋のぬめりの栄養素も風味も全部残ってます。もう一つは含ませ煮。六方むきにして米のとぎ汁で下茹でし、水でぬめりやアクを全部洗い流してから柔らかく煮て味を含ませる。お出汁が染みておいしいもんですが、お芋の味はあまりしない。一般の料理教室は後者ばかり教えますが、普段作って食べるにはどっちがいいでしょうか。

手を洗うことが日本人の美意識の原点

日本人の美意識の大本にあるのは「手を洗う」こと。料理や食事の前に必ず手を洗い、けじめをつける。清潔ということを非常に重んじる文化だからこそ、「お造り」という料理も成り立つんです。加熱しない食べ物を安心して食べられるのはまさに日本料理だけ。皆さんも、調理の際にこまめに手洗いし清潔さを保つ習慣を身につけると、料理が2～3ランク急においしくなりますよ。

一汁一菜を食生活の基本に

一汁一菜の料理は、ご飯を人数分炊いて、その間に冷蔵庫にあるもので具だくさんのお味噌汁を作るだけ。簡単だから持続可能で、栄養も取れ、しかも飽きない。大根のしっぽとかも入れれば生ゴミも出なくなる。これを基本にして、時間の余裕がある時にはプラスアルファでおかずをつければ「あっ、今日はサンマがついてる！」と家族も喜ぶわけです（笑）。子どもやお父さんだってご飯とお味噌汁さえ作れれば、お母さんの帰りが遅くなっても自分でスッと食事を作って済ませられる。一汁一菜は幸福な生活を送るための基本となる家庭料理のスタイルなんです。



*民芸とは日常的に使われる工芸品のこと。柳宗悦（1889～1961）らが民芸の中に「用の美」を発見し、世に広く紹介する活動（民芸運動）を行った。



第2部は名倉、好本両教授が加わっての鼎談。黒豆の煮方や洗い米など料理談議に花が咲いた



講演に先立ち挨拶する名倉秀子食物栄養学科教授



司会進行役を務めた好本惠文芸文化学科教授

質疑応答





サテライト会場でモニター聴講していた参加者の質問に答える土井教授

土井教授の授業



土井教授が担当する総合科目「和食文化概論」（全15回）は、学生の食の活動の土台となる「和食」の基本的な考え方が学べる授業。家庭料理とプロの料理の違いから、ご飯の炊き方、焼く・炒る・煮る・蒸すの調理法、ハレとケの調理思想、季節感、和食の美意識、器や調理道具の扱い方まで、さまざまな観点から和食文化について考察しています。昨年12月17日には、「ほうれんそうのゆで方、炒め方」「鶏肉の揚げ方」を土井教授が調理実習室で実演。参加した約300人の学生は、土井教授の無駄のない動作や手さばき、段取りに真剣に見入っていました。

公開講座

三浦しをん氏公開講座「先生！、、、私を伝統芸能好きにしてください」

平成30年度に開設4年目を迎え、全学年がそろった文芸文化学科。その〝完成記念〟を兼ねた公開講座が昨年11月3日、作家・三浦しをん氏を招いて開催されました。そこでの鼎談（ていだん）の一部をご紹介します。



三浦さんの文楽への愛に満ちたエッセイは必読

渡辺　三浦さんは、なぜ文楽に興味をお持ちになったのですか。

三浦　大学時代、人形浄瑠璃を研究なさっている先生にチケットを取っていただいて舞台を観て「すごく面白いな」と思ったのがきっかけです。その後、文楽のエッセイ*1の連載依頼が来て、取材を重ねるうちにますます深みにはまってしまって。

渡辺　あのエッセイは非常にユニークで、文楽への愛が溢れていますね。皆さん、文楽をご覧にならなくてもいいけど、三浦さんの本はお読みになる必要がありますよ。

三浦　エーッ、今日の鼎談は「文楽を観に行こう」という趣旨じゃないんですか（笑）。

鳥越　いや、大丈夫。三浦さんの本を読めば絶対に行きたくなりますから。それに、練り上げられた演出や芸の魅力は本を読むだけでは分かりません。劇場に足を運んで、演者と同じ空気を吸い、一体になって舞台を楽しまないと。

奇想天外な時代物が好き！でもお尻と腰が痛くなる

渡辺　文楽には、演目が作られた江戸時代よりも昔の出来事を扱った「時代物」と、当時のリアルタイムな事件などを題材にした「世話物」とがあります。三浦さんはどちらがお好きですか。

三浦　もう、最初から時代物ですね。とにかく登場人物の行動が奇想天外で過激なところが面白い。例えば、先日両先生とご一緒に観た『出世景清』*2でも、源頼朝の命を狙う平家の落武者の景清が、いったん脱獄したのにまた自分から牢に戻ったり、自分で自分の目をえぐり取ったり（笑）。

鳥越　私も時代物が好きですね。近松門左衛門は曽根崎心中などの世話物が有名ですが、実は時代物に才能を発揮した作家で、作品数もそちらが圧倒的に多い。ただ、上演時間が長いので、初心者はくたびれるんだと思う。

三浦　確かに時代物は時間が長いから、お尻と腰の痛さとの戦いでもあります。エコノミー症候群にならないよう、途中で靴を脱いで足の指を動かしながら観ています（笑）。

つい眠ってしまうのは演者の芸が良いから

渡辺　三浦さんのエッセイに、文楽を見ながら寝てしまう話がある。僕も、好きな舞台なのに眠くなることがあります。

三浦　でも、本当に下手な芸を観せられると心臓に負担がかかって寝るどころじゃないので（笑）。

鳥越　眠くなるのは、芸が良くてうっとりするからですよ。もっとも、渡辺さんも大変お好きだった豊竹山城少掾*3のような素晴らしい名人芸になると、逆に圧倒されて眠れませんが。

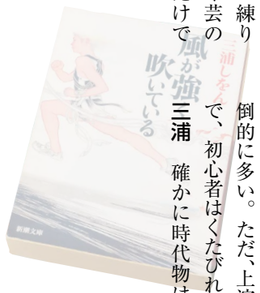
渡辺　まったくです。僕が中学生のころは名人ぞろいで、大阪に観に行くほど文楽に熱中したおかげで不良にならずに済んだ（笑）。

三浦　文楽は、きまって登場人物に理不尽な運命が降りかかる。それに立ち向かう姿に勇気づけられたり、考えさせられたり。それも文楽の大きな魅力だと思います。

*1『あやつられ文楽鑑賞』（2011年、双葉文庫）のこと。このほかに三浦氏は文楽の世界を舞台にした小説『仏果を得ず』（2011年、双葉文庫）も執筆している。

*2 近松門左衛門作の人形浄瑠璃の演目。1685年初演で義太夫節の嚆矢（こうし）とされる。昨年7月、鳥越文蔵氏の発案・監修により、山口県長門市の劇場で333年ぶりに通しで上演された。

*3 昭和の名人といわれた義太夫節の第一人者。1967年没、享年89。





渡辺 保 氏

演劇研究者・評論家。本学客員教授。1936年東京生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業。東宝入社後、評論活動をスタート。退社後は放送大学等で教鞭を執る。著書、受賞歴多数。近著は『九代目團十郎』。



三浦しをん 氏

1976年東京生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。2000年、『格闘する者に○』でデビュー。2006年『まほろ駅前多田便利軒』で直木賞。他に『風が強く吹いている』『舟を編む』『愛なき世界』など著書多数。



鳥越 文蔵 氏

日本近世演劇研究者。早稲田大学名誉教授。1928年長崎生まれ。早稲田大学文学部演劇科卒業、同大学院修了。早稲田大学演劇博物館館長、歌舞伎学会初代会長等を歴任。三浦しをん氏の大学時代の恩師。



3人の息の合ったトークに学生・一般客ら約270人が熱心に耳を傾けた



第1部では文芸文化学科の好本惠教授と対談

三浦しをんさんとお話ししてみよう!



公開講座終了後、三浦しをん氏を囲んでの「茶話会」が7号館1階のカフェテリアで催されました。参加したのは本学文芸文化学科の学生と公開講座を受講した高校生。憧れの作家を前に最初こそ緊張した面持ちでしたが、司会に促されると「言葉について意識的に考えるようになったのはいつごろから?」「登場人物のキャラクター設定はどのように考えているの?」「好きな男性や芸能人をイメージして小説を書くことはある?」とたちまち三浦氏を質問攻めに。同氏も「皆さんの好きな俳優やタレントは誰?」「普段はどんなふうに過ごしているの?」と"逆取材"するなど、大いに盛り上がりました。



文芸文化学科の学生が花束を贈りました

学内では運動系、文化系合わせて40のクラブ・同好会（学友会登録）が活動しています。
大学生活の1コマを彩る学生たちの活動の様子をお伝えしていきます。興味がわいたらぜひ見学に来てください!!

わたしたちの クラブ活動紹介します!! vol.3

型にはまらず いきいきと —— バスケットボール部

部長
食物栄養学科 3年
宮﨑 優衣





楽しまなくちゃ勝てない！がバスケットボール部のモットーです。みんな型にはまらず、自分らしさを出して、いきいきと活動しています。

現3年生が入部するまでは人数が少なく廃部寸前でした。しかし、部を残そうと頑張ってこられた先輩方、時間をつくって指導してくださる先生方、部員それぞれの高校の時の対戦相手や、バスケットボールを一緒にやっていた同級生に再び会うなど、バスケットボールをやっていたからこそ次々とつながっていく「めぐりあい」のおかげで、現在もクラブは活動ができています。

今まで本気でバスケットボールに取り組んできた経験者も多いため、試合前の練習では緊張感が漂う場面もあります。それでもお互いを尊敬し、認め合うことで、学年の分け隔てもなくみんな仲良く協力して活動ができていることが部の誇りでもあります。

3年生当初からの目標である関東大学女子バスケットボールリーグ戦3部昇格まで、手が届きそうで届かない現状が続き、歯がゆく思うこともあります。「あの時の試合で勝っていれば」「あのシュートが入っていれば」そんな後悔もあります。しかし、この経験は私たちにとっては大きな力で、きっと生涯忘れることのない思い出になると思います。

3年生は残りわずかになったクラブ活動を精一杯に頑張り、そして未来へ向かって、私たちの想いを後輩たちへとつなげていきたいと考えています。



- **活動日**
  火・金曜日　18時～20時半
  日曜日　10時～13時
- **活動場所**
  記念ホール内メインアリーナ
- **活動内容**
  関東大学女子バスケットボール大会　4部7位（全41校）
- **部員数**
  20名

四季を感じ センスを育む —— フラワーアレンジメント部

部長
文芸文化学科 3年
田島 萌乃







フラワーアレンジメント部は、毎月1回のレッスン、桐華祭での作品展示や販売、卒業式・入学式の装花などを行っています。外部講師の先生が同好会のころからご指導くださっていますが、学生との距離が近く、のびのびとした自由な雰囲気の中で作品を制作しています。

部の魅力はお花を通して四季を感じられる点です。ほかにも、デザインやカラーコーディネートを楽しく学ぶことができます。

作品をプレゼントして相手に喜んでもらえたとき、自分の思い通りに作品が完成したときは、達成感を得ると同時にうれしい気持ちでいっぱいになります。お花の配置や配色に納得がいかず、途中で投げ出したくなることもありますが、講師の先生や部員と意見を出し合いながら、作品を見た人が笑顔になれるものを作れるよう努力しています。

私が本格的にフラワーアレンジメントを習い始めたのは、大学に入学してからです。4月の体験レッスンに参加し、講師の先生が気さくに話しかけてくださり、自分の好きなように作品を作れたことがうれしくて、その日のうちに入部することを決めました。また、フラワーアレンジメント部に入部したことで、気の置けない先輩や後輩、かけがえのない友人ができたことも私にとって人生の財産になりました。クラブ活動は、授業では学ぶことのできない知識や仲間を得られる場所だと日々実感しています。

- **活動日**
  月1回　(木・金・土曜日のいずれか1日を選択)
- **活動場所**
  けやき館1階フラワーアレンジメント部部室
- **活動内容**
  桐華祭(展示・販売・体験)、学位記授与式・入学式の装花、学友会イベント(記念品提供)、入学予定者に送るポストカードの制作協力
- **部員数**
  16名



人間福祉学科

片居木 英人 教授

学生時代は人間形成に大きな影響を持つ年代。親や兄弟、友人はもちろん、普段の学びの中で教職員から受ける影響は少なくないはず。そんな私たちの成長を支える本学の教職員を紹介していきます。

教職員紹介



「いつも半そでの先生」として学生に知られている片居木英人先生。あふれんばかりの愛情を持って学生に接する温厚な先生です。

「人間福祉学科には、人の役に立ちたいと思い福祉を志している優しく温かな雰囲気の学生が多いですね。でもね、優しいだけじゃないんですよ。みんなそれぞれ社会福祉や介護・保育の分野で働きたい、将来は福祉の専門職に就きたいと強く思っているので、資格取得や将来の夢に向けて頑張る学生が多いです」

片居木先生の専門は憲法政策です。大学3年生の時、ゼミで憲法を学ぶ中で社会福祉学に関心を持ち、大学院に進みました。

「教えることにも魅力を感じていたので社会科の教員免許を取りました」

現在の研究テーマは、売春防止法や婦人保護事業などを通して「性の問題をどう人権問題としてとらえるか」。法制度や施策面から検討を重ねながら、最終的には男女差別や多様な性の不平等問題の解決へつなげていきたいそうです。



そして、私たちがお邪魔した目的のもう1つはなぜ真冬でも「半そで」なのか？の秘密を解明することでした。先生によれば、

「建物内や教室は暖房で暖かいですよね。私は授業をするときにメモを見てそのまま話すのではなく、頭で考えて自分のメッセージを込めながら話します。そうすると自然と体温が上がってくるんです。だから半そでででも大丈夫」

研究室を訪ねた12月初め、片居木先生は私たちのために暖房をつけてくださいました。

（ライターデザイン部　大山 彩花、竹山 智美）

留学生の今

本学では学部、大学院、留学生別科で数多くの留学生が学んでいます。母国を離れ、遠い新座の地で日々勉学に励む〝留学生の今〟をお伝えしていきます。第3回は、卒業後テレビ業界への道を進む、中国出身のハク・セツさんを紹介します。

「夢の実現に強い気持ちを持って」

メディアコミュニケーション学科 4年　ハク・セツさん



テレビ業界に関心があり、留学中もテレビ業界への就職を常に意識してきたと話すのは、メディアコミュニケーション学科4年のハク・セツ（BAI XUE）さんです。4月からテレビ番組制作会社で働くことになったハクさんに留学生生活を振り返ってもらいました。

ハクさんが来日したのは、2015年3月。北京空港を飛び立ち、初めて日本の地を踏んだ成田空港で感じたことは「空気がきれい」でした。そして新座の街と大学の印象は桜。「日本に来たんだ」と実感がわいたそうです。

中国の大学ではマスメディアを専攻。日本のテレビ番組が好きで、将来は日本でテレビにかかわる仕事がしたいと考え留学を決意したそうです。別科から3年次に編入後、マスメディアについて広く深く学びました。日本のテレビ番組はとても面白いと語るハクさんは「お笑いや特集番組など番組のアイデアがどう生まれるのか、中国との違いは何かを考える機会が増えました」と、テレビ業界へ就職する気持ちが強まっていったそうです。

「SPI（適性検査）と面接に向けて繰り返し練習しました。でも何十社から〝お祈りメール〟をもらいました」。それでもくじけなかったのは「自分の夢をかなえたい」という強い気持ちがあったから。さらに、大学をはじめ、テレビ局主催イベントのオーディション、地域活動などでの多くの人との出会いが支えになったとハクさんは振り返ります。卒論は「希望を与える」をテーマに、絵本を制作しました。「考え方、視点を変えることで悩みを希望に変えることができるのではないか」。そんな思いを込めました。

4月から夢への第一歩を踏み出すハクさんは、「2020東京オリンピック・パラリンピックに関する番組制作に関わることがまずは目標です」と言います。穏やかな表情の中に、内に秘めた強い思いを感じることができました。

（ライターデザイン部　青井 沙蘭、天羽 菜月）

ゼミに直撃！ Vol.3

生活情報学科

小野 裕次郎 ゼミ

シリーズ3回目は、生活情報学科の小野裕次郎先生のゼミにお邪魔しました。募集・就職担当副学長という要職を担うだけに、小野先生の学生指導のモットーは社会に出たことを念頭に「あがくことを通して自信をつける」だそうです。

（ライターデザイン部　唐津 奈々子、蛭川 美佳子）

〝自分で調べ学ぶ能力〟を養うこと

小野ゼミでは現在、4年生8名、3年生3名、2年生8名が所属し、「ゲーム作成」や「データ解析」などに取り組んでいます。「ゲーム作成」はゲームを作ることが目的ではなく、プログラミングやシステムを学ぶ題材として利用しています。「データ解析」では、単なる数字の羅列であるデータから人間が利用できる知識を取り出すことができる驚きを体験することが重要だと考えています。

「ゼミを通して、AI（人工知能）に使われるのでなく、使いこなす能力を身につけてほしい」と小野先生は話されました。

前述のゼミ活動以外に力を入れていることは、卒業研究と就職活動です。卒業研究は、一つのことをテーマに突き詰めて取り組むことによって、社会に出てからも必要となる〝自分で調べ学ぶ能力〟を養うことを目的にしています。もう一つの就職活動は、小野ゼミが最も重視していることです。

「必要なタイミングで必要な指示や指導を学生に与え、最大の成果を出したいと考えています」と小野先生。

そこで、小野先生に指導のモットーを伺いました。小野先生は「あがくこと」の大切さを伝えることだとおっしゃいました。



小野 裕次郎教授

専門：データ解析、知識獲得、パターン認識
経歴：東京電機大学大学院　理工学研究科システム工学専攻修了
　　東京電機大学大学院　理工学研究科応用システム工学専攻修了
　　東京電機大学大学院　理工学研究科　工学博士

「社会に出るとさまざまな困難にぶつかります。そうしたときに、あがいて何とかしたという経験が力になると思うのです。ですから学生には、今のうちに大いにあがいてもらおうと思っています（笑）。

大学は社会に出る直前の時期です。社会で生きていく上で必要な知識や勉強する能力、あがいて何とかしたという自信を付けてほしいと考えています」

そんな小野先生の下でのゼミ活動の様子を聞くと、「皆それぞれのゴールに向かって自由に自分のペースでやっていますね」とのことでした。

本学は3年生になるとどの学科でもゼミが必修になります。小野先生にゼミを選ぶ上での大切なことを伺いました。小野先生は「しっかり自問自答して、何を得たいか、何が必要で重要なのか考え自分を見つめることだと思います。学生生活と社会をつなぐ大事な時期だからこそ、自分の目的意識をしっかり持ち、どのゼミがより多くのものを得られるかを比較しながら選んではいかがでしょうか」とアドバイスをしてくださいました。



小野先生とゼミ生の皆さん

大学にプラス!

十文字 TOPICS

研究活動やスポーツ、ボランティア、各種イベントなど、キャンパスの内外で多彩な活動を展開する十文字学園女子大学の学生・教員たち。このコーナーでは、そうした日々の活動や出来事をご紹介します。

12/11
最優秀賞を受賞



「トラベルライティングアワード新座賞 2018」で最優秀賞を受賞

（メディアコミュニケーション学科2年 大山 彩花さん）

新座市内の3大学を対象に新座市の魅力を発信する旅エッセイを募集した「トラベルライティングアワード新座賞2018」において、妙音沢の魅力を軽妙なタッチで表現した大山さんの作品「魅力ある沢 妙音沢」が応募総数330点の中から最優秀賞を受賞しました。写真は大山彩花さん(右)と新座賞受賞の唐津奈々子さん(同学科1年)。

12/9
北海道復興支援



「新座野菜 de けっぱれ弁当」で北海道復興支援＆新座活性化!!

（食物栄養学科 金髙ゼミ）

食物栄養学科 金髙ゼミ3年生11人が、地震被害にあった北海道の復興を支援するイベント「からだにベジプラスプロジェクト」を企画。新座の地産野菜を使い北海道の郷土料理を盛り込んだ「新座野菜 de けっぱれ弁当」、「石狩鍋」、新座の里芋やゆずを使ったスイーツ等を野火止ふるさと広場で販売しました。「けっぱれ」は「がんばれ」の北海道弁。収益金は、復興支援金として寄付しました。

8/23
優秀賞を受賞





第6回「カルローズ」料理コンテスト2018学生部門にて、優秀賞を受賞

（食物栄養学科4年 原 千里さん）

「日本の伝統食"寿司"と"海外料理"の融合をテーマに、『見た目』と『斬新さ』で勝負しました」という原さんの作品「地中海風押し寿司」が、学生部門の優秀賞を受賞。日本のお米である短粒種とタイ米などの長粒種の中間にあたるカリフォルニア産の中粒種「カルローズ」の特徴を生かし、新しいスタイルの『SUSHI』を考案しました。

9/23
審査員奨励賞を受賞



第5回「チャレンジ！糖尿病 いきいきレシピコンテスト」で審査員奨励賞を受賞

（左から食物栄養学科 土屋 はるかさん、大谷 夏穂さん、石川 沙亜羅さん）

栄養士・管理栄養士を目指す学生を対象に、糖尿病予備群や患者用のレシピを募る日本糖尿病協会主催の同コンテストで、食物栄養学科 和田研究室の3年生が審査員奨励賞を受賞しました。受賞献立名は「Guratche!! ～特別な日のイタリアンランチ～」。糖尿病の両親の結婚記念日に娘からお祝いのランチを贈るというテーマで、花嫁のヴェールのようなフワフワの卵白や、花束に見立てたサラダのグラスにリボンを付けるなどのこだわりが評価されました。



11/11
第16回
国際交流デー



留学生が「第16回国際交流デー」で市民と交流

（大学院国際栄養学研究室）

大学院国際栄養学研究室（山本 茂教授）に在籍するベトナムからの留学生7名が、民族衣装のアオザイを着て参加。ベトナムの伝統料理「揚げ春巻き」を販売し、母国の料理を通じて新座市の人たちと心の通い合う交流を深めました。「『ベトナムへ行きたい』『アオザイが素敵ですね』と言われうれしかった。ベトナムと日本をはじめ、各国の食文化を通じた国際交流の機会になり、皆さんのたくさんの笑顔を見て元気になりました」と参加したヴゥ テゥイ リンさん。



10/27,28
第52回
桐華祭

第52回 桐華祭







多くの催しの中で、やはり楽しみなのは出店です。友達同士や親子連れでにぎわい、食べるものに迷いながらも楽しそうに過ごしている様子があちこちで見られました。

第52回桐華祭が10月27、28日の2日間にわたって開催されました。天候に恵まれ、両日とも大勢の人が来場し、学生たちは例年にまして張り切っていました。桐華祭の様子を学生目線で紹介します。（取材は2018年度後期科目「広報制作」受講生が担当しました）



「15分の宇宙旅行」。ひときわ目を引くこの言葉、それは天文同好会によるプラネタリウムの上映です。段ボール製のドーム内に秋の星空が映し出され、星に関する神話を聞きながらの観賞が可能。部員の天文に対する想いが表れた空間になっていました。



カフェテリアステージでの目玉企画は「ガチコン！」。学内の有志団体が審査員と観客の前でパフォーマンスを披露し、順位を競います。今年はSparkling、手話部、お寿司サークル、J和太鼓部の4団体が会場を熱く盛り上げました。



桐華祭恒例となったMusical club ～ Bloom ～の公演。今年の演目は「サウンド・オブ・ミュージック」でした。出演した学生は「最後まで苦戦しながらも頑張れた。大勢の人に見てもらえてよかった。次回公演に向けて一層練習に取り組みたい」とさらなる抱負を語っていました。

産学民連携

「十文字学園女子大学 食物栄養学科」が地域の企業と共同開発

栄養学的・調理学的な観点より学びを深め、さらに新座産の野菜を使い、アレルギーに考慮した「ベジパフェ」を開発するなど、学生とともに地産地消や地域の企業、住民との産学民連携に取り組む食物栄養学科の金高有里専任講師にお話を伺いました。

金高ゼミでは、実学教育の一環として、学生ができるだけ早期に社会との関わりを持ち、即戦力を養うことで将来の管理栄養士としての活躍の可能性を広げることを目的としています。

その一つとして、地域の企業や住民の方との産学民連携にも力を入れて取り組んでいます。ご紹介する「ベジパフェ」は、新座市の不動産業・㈱リブランとゼミの学生の共同開発で生まれたスイーツです。ゼミの学生たちは、リブランが建設したマンション「エコヴィレッジ鶴瀬」の屋上菜園で、住民の方たちが育てたさつまいもを住民と一緒に収穫。そのさつまいもを活用したレシピを開発し、リブランの経営する新座市内の「&l-ivlanてまひまカフェ」でメニュー化していただきました。こうして「ベジパフェ十文字」は期間限定の販売に至りました。

学生たちは、産学民連携を意識しながら、コンセプト、原価計算、ネーミング、試作、パッケージ、発注といったさまざまな過程について取り組み、カフェでの販売を実現しました。

このコンセプトの一つとして、アレルギーに悩む子どもたちが増加の傾向にあることから「お友だちと一緒のお菓子を食べることができない」「親子でお菓子作りが楽しめない」という声に寄り添い、乳・小麦粉を使用せず、地域の野菜を美味しく食べられるレシピを検討しました。

地域の食材としてさつまいもだけでなく、にんじん、里いもも使い、たくさんの方に楽しんでいただけるパフェになりました。

（食物栄養学科専任講師　金高 有里）



レシピ ベジパフェ十文字(10食分)

1.『キャロころ』を作ります

さつまいも（紅はるか）200g
にんじん100g　砂糖20g
マーガリン15g

❶さつまいもの皮をむき、小さく切って水にさらす　❷にんじんをすりおろす　❸さつまいもの水気を切り、にんじんと一緒に電子レンジで加熱する　❹さつまいもを裏ごしする　❺マーガリンと砂糖を加え、混ぜる　❻一口大に丸く成形し、180℃に予熱したオーブンで8〜10分焼く

2.『ブラウニーチョコ』を作ります

板チョコ（乳不使用）100g
里いも70g（つぶして）
卵 1個　はちみつ50g
油15g　米粉50g　くるみ45g

下準備　★オーブンの予熱は170℃　★里いもは、洗って皮をむく

❶里いもを軟らかくなるまで茹で、つぶす　❷ボウルに卵、はちみつを入れてよく泡立てる　❸チョコを細かくくだいて、湯せんで溶かす　❹チョコと油を混ぜる　❺②に④を入れて混ぜる　❻⑤に里いもと米粉、くるみを入れて混ぜる　❼型に流し込み、170℃に熱したオーブンで30分焼く

3.『豆乳アイスクリーム』を作ります

豆乳ホイップ200ml
豆乳200ml　砂糖大さじ3

❶豆乳ホイップに砂糖を加え、泡立て器で混ぜる　❷豆乳を3〜4回に分けて加えながらさらに泡立てる　❸全部加えたらフリーザーバッグに入れて冷凍庫へ

4. パフェを組み立てます

コーンフレーク20g　ミント少々
ベリー類(冷凍可)20g

❶コーンフレーク、**1〜3**を順に盛り付けていきます　❷最後に、ベリーとミントを飾ってできあがり！





タワーのように積み上げるパフェです。
ぜひ作ってみてください。

就職活動最前線

就職活動を振り返って

2019年の就職活動がスタートしました。「超売り手市場」とは言われるものの、希望に合った就職先を目指す学生にとってはやはり試練の時です。今回は、学科の第1期生として就職活動に臨んだ2人に、就職内定までの道のりなどを聞きました。

（ライターデザイン部　金子 葵、川上 奈恵、三輪 奈央）



小川 美穂さん
文芸文化学科4年
埼玉県立坂戸高等学校卒業
●内定先　株式会社三井住友銀行



髙橋 佳菜子さん
健康栄養学科4年
私立杉並学院高等学校卒業
●内定先　株式会社ルネサンス

Q.就職先を決めた一番の理由は何ですか。

「人を活かし、自分も活かせる仕事」に就きたいと考え、3年生の9月ごろから就職活動を始めました。幅広い業種をチェックする中で、金融取引のサポートを通じていろんな世代や立場の人と出会える金融の仕事に魅力を感じ、最終的に、大学の業界セミナーで一番印象が良かった銀行を選びました。

学科で「健康運動指導士」と「栄養士」の勉強に取り組んできたので、これらの資格を活かせる企業に絞って就職活動を行いました。内定先はスポーツジムを全国展開し、健康づくり支援事業なども幅広く行っている会社。ダブルライセンスを活かして、運動・食事の両面から健康づくりに携われると考え、就職を決めました。

Q.就職活動で苦労したことや学んだことを教えてください。

出版や教育、一般事務など進路の選択肢が幅広い学科なので、どの業界に進むかずいぶん迷いました。結局、決まらないまま就活をスタートしたので、エントリーした会社は約50社、企業説明会などにも毎日2〜3社掛け持ちで回るような状況に。大変でしたが、実際に自分の目で多くの会社や業種を比較・検討したことで、納得できる就職に結びついたと思っています。

学科の第1期生ということで、身近に相談できる先輩がいないのが心細かったですね。でも、就職説明会やインターンシップなどに積極的に参加し、友人や他大学の学生とも情報交換を重ねるうちにいつのまにか不安は消えていました。また、面接試験では、質問された内容をメモして対策を練り、次回に生かすことで、最終的に自信を持って面接に臨むことができました。

Q.学業以外の経験や体験は就職活動に役立ったと思いますか。

クラブ活動でダンス部に所属。公演前の意見交換などを通して少しずつ積極性が身につき、就活時には企業の担当者とも臆せず話せるように。また、ハワイ海外研修で苦手な英語を克服できたことも自信になりました。在学中にさまざまなことにチャレンジした経験は、就活での自己PRに活用できるだけでなく、自分自身の大きな財産になるはずです。

競馬場内の飲食店で、4年間アルバイトリーダーを担当しました。接客業務に携わりながら、言葉遣いや高齢のお客様への配慮、クレーム対応の仕方など、さまざまなコミュニケーションのスキルを学び、高齢者施設での資格関連の現場実習などで活用することができました。面接試験の際に緊張することなく話せたのも接客経験の賜物だと思っています。



若桐会 Letter

「美しいことばを次世代に」

～幼稚園やイベントで絵本を朗読～

TBS系の報道番組『サンデーモーニング』でキャスターを務めるなど、長年にわたりテレビの世界で活躍してきた内藤あゆみさん。現在は、仕事で培った「話す」スキルを生かして、絵本の読み聞かせや朗読に意欲的に取り組んでいます。

短大在学中に大手電機メーカーの街頭宣伝のアルバイトを経験し、「話す仕事」に興味を持ったという内藤さん。卒業後は、トヨタプリティ（トヨタ車のPRをする2年契約の専属アテンダント）の一員として、ショールームや全国の販売店などで広報活動に携わりました。

「最初に数カ月間の研修があり、プロのアナウンサーから話し方の基礎をしっかり学びました。現場でのナレーション業務はとても楽しく、トヨタとの契約終了後も話す仕事を続けたいと思っていたところ、たまたま『サンデーモーニング』でキャスターの募集があり、運よく採用していただきました」

同番組では天気中継、スポーツ、経済情報などを8年間担当。楽しい思い出も多いがそればかりではなかった、と内藤さんは述懐します。

「強く印象に残っているのは阪神淡路大震災の取材。悲惨な状況下で被災者にマイクを向けることしかできない自分がもどかしくて……。3週間泊まり込みで取材を続け、最後はドクターストップがかかって東京に戻りました。報道の役割や死生観について深く考えさせられた体験でした」



在学中は「コールはなみずき」（コーラス部）の活動に熱中。2年次には指揮者を担当した

内藤さんはその後、結婚・出産を機にテレビの第一線から退きましたが、長女が幼稚園に入園すると、再び「話す」スキルを生かした活動を始めます。幼稚園の保護者グループで月1～2回行っている「絵本の読み聞かせ」の活動です。

「私たちが持ち寄ったお薦めの絵本の中から子どもたちに一人一冊ずつ選んでもらって読み聞かせをするのですが、最後までじっくり真剣に聞いてくれるし、何よりも反応がすごく純粋で可愛い。こちらが逆にエネルギーをもらっている感じで、すっかりはまってしまいました」

読み聞かせは、長女が卒園した今も継続中。また、保護者同士の勉強会に定期的に参加するなど、絵本研究にも力を入れているそうです。

「さらに4年ほど前からは、チャリティーイベントで絵本の朗読も始めました。先輩キャスターの橋谷能理子さんからお話を頂戴したのがきっかけです。東日本大震災などの被災地復興に役立てると聞いて、阪神淡路大震災の取材時の記憶がよみがえり、ぜひ協力したいと思いました。回を重ねるごとに応援して下さる方々も増え、こちらも非常にやりがいを持って取り組んでいます」。今後も読み聞かせや朗読を通じて、多くの人に絵本の魅力や日本語の美しさを伝えていきたい、と内藤さんは



チャリティーイベントで童話を朗読する内藤さん（2017年12月10日、東京ウィメンズプラザホール）



内藤（ないとう） あゆみさん

Profile

旧姓岩田あゆみ。1986年3月十文字学園女子短期大学文学科英語英文専攻卒業。トヨタプリティ（15期生）を2年間務め、テレビの世界へ。報道番組『サンデーモーニング』（TBS系列）キャスターをはじめ、料理番組などでも幅広く活躍。2000年結婚、02年長女を出産。その後、長女の入園を機に絵本への関心を深め、読み聞かせや絵本研究を始める。近年はチャリティーイベントなどで絵本の朗読も精力的に行っている。

お知らせ

新しい十文字が動き出します。

2020年4月　1学部9学科の学びから3学部9学科体制に生まれ変わります。（設置構想中）



Message　生涯を通して輝き続ける女性を育てる
～将来の社会をみすえ、新しい教育をはじめます～

現行

人間生活学部
- 幼児教育学科
- 児童教育学科
- 人間発達心理学科
- 人間福祉学科
  - 社会福祉・保育コース
  - 社会福祉・介護福祉コース
- 健康栄養学科
- 食物栄養学科
- 文芸文化学科
- 生活情報学科
- メディアコミュニケーション学科

改組案

人間生活学部
- 健康栄養学科 RENEWAL
  - 健康運動コース
  - 食文化コース
- 食物栄養学科
- 食品開発学科 NEW
- 人間福祉学科
  - 社会福祉・保育コース
  - 社会福祉・介護福祉コース

教育人文学部
- 幼児教育学科
- 児童教育学科
- 心理学科
- 文芸文化学科 RENEWAL
  - 日本語・日本文学コース
  - 多文化理解・共生コース
  - 芸術・文化コース

社会情報デザイン学部
- 社会情報デザイン学科 NEW

※学部・学科の名称等は予定であり、変更することがあります。

新しい学びが始まります

NEW　人間生活学部　食品開発学科（設置構想中）

“食の科学”をベースとし、安全・安心、機能性、おいしさに優れた食品を開発する人材の育成を目指します。



「食のおいしさ」、「食の開発」、「食の科学」、「食の安全・安心と機能性」、「食のビジネス」の5つの領域から食品を開発するために必要な知識を身につけます。また、高度な食品開発研究を行うとともに、食品関連企業と連携した授業、インターンシップ、学内におけるカフェ実習を通して食品を開発する力を養います。

NEW　社会情報デザイン学部　社会情報デザイン学科（設置構想中）

社会学を中核に情報リテラシーとマネジメントを学ぶとともに、ワークショップなどを通じて、学びのフィールドを広げ、課題の発見と解決する能力を習得し、社会や情報をデザイン・構想できる人材を育成します。



教室を飛び出し、企業などとの実践的な学びを通して、協働する力を養っていきます。「企画構想ラボ」では、個人だけではなくチームでアイデアの創出から成果品の完成まで全過程を学生主体で取り組み、デザイン力を身につけます。

学びの幅が広がります

RENEWAL　人間生活学部　健康栄養学科　2コース制

栄養士の養成教育を基盤として、「健康運動」と「食文化」の分野の専門的な知識と技術を学びます。人びとの健やかで幸せな生活【健幸】のために、食・栄養・運動から支援できる人材を育成します。



土井善晴特別招聘教授

健康運動コース
健康のための身体活動から、スポーツ・運動までのサポートができるスペシャリストを育成します。

食文化コース
食を通して、その背景にある多様な食文化を理解し、楽しく豊かな食のスペシャリストを育成します。

RENEWAL　教育人文学部　文芸文化学科　3コース制

世界中で日本文化が注目されている今、文芸文化の学びを発信する時がきました。学科の学びの中核である「日本語」「日本文学」「芸術」「文化」はそのままに、多様な文化を持つ人々とともに生き、新たな文化を創造する人材を育成するために、新コースが始動します。



日本語・日本文学コース
美しい日本語、楽しい言葉の秘密を探り、古代から現代に至るさまざまな日本文学について学びます。

多文化理解・共生コース
多様な文化に親しみ、多文化社会で人々とともにクリエイティブな活動をするすべを身につけます。

芸術・文化コース
日本と世界の美術や演劇を体験的に学び、身近で深い日本文化の特質について考えます。